

各ルート協議会の取り組みについて

令和8年2月27日

北海道サイクルルート連携協議会アドバイザー会議

ルートが考えるターゲット

・ルートが考えるターゲットについて

①長距離をセルフガイドできるサイクリスト

「きた北海道ルート」は旭川から宗谷岬、さらには利尻島を一周する全長約372.4kmの長大なルートです。サイクリストの聖地である北海道最北端の宗谷岬を目指し、離島も含まれるルートのため、長距離をセルフガイドできるサイクリストが本ルートのターゲットです。



②アクティブな旅を求める旅行者

ルート周辺の地域では、天塩川をはじめとしたカヌーやフットパスなど、サイクリング以外のアクティビティが充実しており、スイス・モビリティをお手本に、アクティブな旅を求める旅行者もターゲットと考えています。



現在、力を入れている取り組みについて

・走行環境や受入環境、情報発信等で現在力を入れていること

①ナショナルサイクルルート登録へ向けた取り組み

NCR登録を目指した地域間連携の強化や機運醸成を図るためのシンポジウムの開催や、海外サイクリストの受入環境向上に向けた取り組みを推進しています。



②TEPPEN-RIDEの開催

令和7年度に8回目のTEPPEN-RIDEを開催。イベントの継続的な開催や自立に向けて、参加費の見直しや内容の見直し充実を図っています。



②サイクリスト受入れ環境の取り組み

(サイクルバス&サイクリスト応援カー)

利尻島や稚内市において、自転車をそのまま積み込める「サイクルバス」を、路線バスとして宗谷バス(株)が運行。道路パトロールカー等に自転車の工具や空気入れを積み込み、サイクリストの方が一時的に貸し出すサイクリスト応援カーを運行しています。



将来(次年度以降)取り組んでいきたいことについて

・今後の活動予定や地域からの要望、要求など

①海外サイクリストにも快適な環境の創出

ナショナルサイクルルートへの指定に向け、今後増加が予想される海外サイクリストの受入環境向上に向けた調査・視察を行うとともに、道北地域の魅力を堪能できるサイクリングと他のアクティビティを組合せたツアーの開発や商品造成に取組みたい。



②公共交通機関との更なる連携強化

サイクルバスなど、公共交通機関との連携は進んでいるが、長距離移動が必要な本ルートは、JR北海道のサイクルトレイン等、他公共交通機関と連携を強化したい。



③地域ルートの開発とPRやブランディングの強化

基幹ルートに加えて、訪れる旅行者のニーズに合わせた地域ルート開発やPR、**ブランディングなどを強化**したい。



課題について

・現在、直面している課題について

- ルートの関係する団体は50団体あり、各団体の予算状況等により、走行環境や受入環境整備において共通認識を持ち、足並みをそろえることが課題。また、ナショナルサイクルルートの指定に向け、その指定要件を達成するためには、団体間の更なる連携強化及び地域の機運醸成のため、シンポジウムを開催(令和6年)。引き続き、地域全体での連携強化や機運醸成を継続。
- 公共交通機関の自転車利用について、輸行や客車の貸切ではなく、自転車をそのまま持ち込める車両を導入したいが、JR北海道側の収益性や宗谷線の運行本数の脆弱性が課題。

・将来、取り組みたい事項に関する課題について

- ターゲット層であるセルフガイドのサイクリスト向けの手荷物当日配送サービスを導入したいが、利用ニーズや輸送距離などの地域条件による収益性が課題。
- きた北海道ルート内の各地域ではレンタサイクル利用者が増えてきたことから、地域間が連携し、レンタサイクルを相互乗り捨てできる仕組みを導入したいが、地域間の遠さや料金収受を含めた仕組み・事業者が課題。

石狩川流域圏ルート 活動概要報告

(赤字は昨年度資料からの変更点)

ルートが考えるターゲット

●ルートが考えるターゲットについて

大雪山国立公園など雄大な景観、空知の炭鉱関連施設など北海道遺産にも恵まれ、川沿いの道は信号もなく車の乗り入れもないことから安心して走ることができ、石狩川の流れに沿って23市町村を巡るロングライドを楽しむことができるのが魅力。

ロングライドを楽しむサイクリストや、上流域では旭川空港・JR旭川駅、下流域では新千歳空港をゲートウェイとしていることから、道外やインバウンドの需要にも期待。



将来(次年度以降)取り組んでいきたいことについて

- 今後の活動予定や地域からの要望、要求など
これまで作成したサイクリングマップを活用しながら、流域自治体の情報やサイクルルートの情報を広く発信。
走行会などを通じた、走行環境や受入環境の現地確認。
トイレや給水所が不足している河川空間の整備を要望。
除草や路面の落葉処理及び景勝地の立木の枝払い等を要望。
未舗装箇所の解消を要望



走行会による現地確認

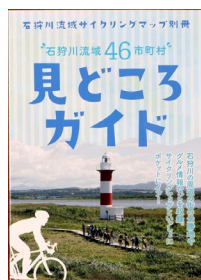
現在、力を入れている取り組みについて

●走行環境や受入環境、情報発信等で現在力を入れていること

これまでに情報発信ツールとして「石狩南部・空知南部編」、「旭川・美瑛編」、「北・中空知編」、「石狩川全圏編」の各サイクリングマップと「見どころガイド(石狩川流域46市町村)」を作成。
案内看板の設置遅延が予測される市町村道の補助標識シールを検討し現地試験を実施中。



各サイクリングマップ



別冊観光ガイド

課題について

●現在、直面している課題について

案内看板、路面表示の整備が令和7年度末で16%と遅れている状況。
国、北海道の協力のもと、各管理区間(道路、河川空間)の整備を推進。
市町村管理区間の看板、路面表示については、各自自治体の共通認識と、設置に係る財源確保が課題。
補助標識ツールを500枚作成し試験的に現地に貼り付けた。



●将来、取り組みたい事項に関する課題について

ホームページによるルートPRについて、管理運営方針や掲載項目、コンテンツ等基本項目の検討。

ルートが考えるターゲット

・ルートが考えるターゲットについて

本格的なサイクリストはもちろん、食や景色を楽しみながら手軽にサイクリングを楽しむサイクルツーリズムのインバウンド観光客なども想定



電動アシスト自転車を活用して、手軽にサイクリング



二つの国立公園等の絶景



地元のスイーツ等で食も楽しむ

将来(次年度以降)取り組んでいきたいことについて

・今後の活動予定や地域からの要望、要求など
地域ルートの検討を継続
地域ルートのサイクルマップや構築したポータルサイトの更新やSNSによる情報発信・PRの継続



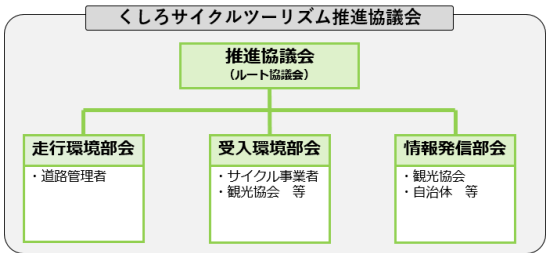
今年度の地域ルート検討の様子



Facebookでの情報発信

現在、力を入れている取り組みについて

・走行環境や受入環境、情報発信等で現在力を入れていること
令和5年度からルート協議会の組織体制を3部会制へ変更
地域ルートの造成を推進しており、これまで釧路市、弟子屈町、鶴居村で地域ルートを造成し、令和6年度は標茶町で地域ルート造成ワークショップおよび試走会を実施
管内サイクル情報を一元化したポータルサイトを構築
SNSを活用した情報発信の実施



標茶町地域ルート試走会

課題について

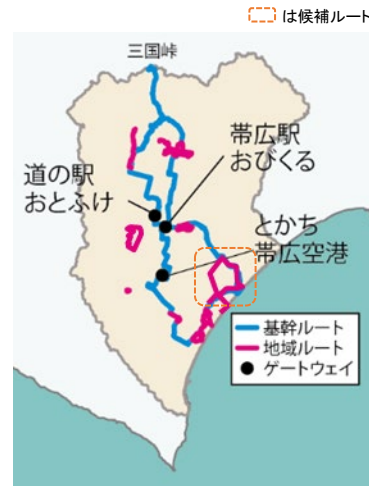
・現在、直面している課題について
各自治体等によって、サイクルツーリズムに対する意識に差があるため、今後は地域の機運醸成を高める等が必要。
各ルートの知名度を上げるため、効果的なPRや広報活動について、効果的な事例をご教示いただきたい。

・将来、取り組みたい事項に関する課題について
地域ルートの造成を進めているが、各ルートのサイクリストが増加している印象がない。ルートを活用した取組、もしくは知名度を上げる効果的な事例を共有いただき、協議会の活動の参考とさせていただきたい。

ルートが考えるターゲット

○ルートが考えるターゲットについて

- ・ 基幹ルート403kmは、十勝北部にある三国峠をはじめとする山地から、十勝中部から南部にかけて広大な十勝平野、そして海岸線へとつづく多様な景色を楽しめるルート構成であり、街乗り(初心者)からロングライド(上級者)まで幅広く自転車旅を楽しめるルート。
- ・ ルート周辺には地域の魅力的な景観資源が多く存在するため、地域ルートを活用し周遊を促す。
- ・ 観光客、地元サイクリスト、初中級者、上級者全てのサイクリストがターゲット。



現在、力を入れている取り組みについて

○走行環境や受入環境、情報発信等で現在力を入れていること

【走行環境】

- ・ 走行空間整備の促進 (路肩拡幅・排水桝調査・横断クラック対策検討・注意喚起看板等)
- ・ 案内サインをNCR仕様に更新、中間標識の充実
- ・ 地域ルートの充実

【受入環境】

- ・ サイクルステーションとサイクリストにやさしい宿(CS・CH)の充実、手ぶらレンタサイクルの継続、NCRモニュメントの検討

【PR・誘客】

- ・ 地域イベント等におけるルートPRの実施
- ・ サイクリストが使いやすいマップの検討及び更新
- ・ ルートのセクション分けによる幅広い誘客の促進

【その他】

- ・ 道東3ルート(釧路、網走、十勝)での連携
- ・ レンタサイクル実態調査の実施



横断クラックの実走評価



NCRモニュメントの検討



道東3ルート連携チカホイベント

将来(次年度以降)取り組んでいきたいことについて

○今後の活動予定や地域からの要望など

【今後の活動予定】

- ・ NCR改善事項のフォローアップ継続(走行環境、受入環境等)
- ・ ルート案内の充実(中間標識、GWとルート間の案内等)
- ・ 走行環境の向上に向けた検討・試行(横断クラック対策検討)
- ・ 地域ルートの拡充
- ・ NCRモニュメントの設置
- ・ 受入施設(GW等)との意見交換会の継続
- ・ GWにおける統一的な情報発信手法の検討(パンフレットラックの設置・壁面を活用したポスター掲示)
- ・ レンタサイクル環境の充実
- ・ 公共交通機関との連携メニュー検討
- ・ 認知度向上に向けたイベント等でのPR実施
- ・ 利用者数把握に向けた調査検討
- ・ 道東3ルート(釧路、網走、十勝)での連携した取り組みの継続

課題について

○現在、直面している課題について

【走行環境の課題】

- ・ 走行空間の整備促進
→NCR基準に一部未達、複雑な交差点等における通過案内の手法
- ・ 走行環境の向上 →路面管理等

【受入環境の課題】

- ・ 受入施設の質の向上(ゲートウェイならびにCS・CH)
- ・ レンタサイクル環境の向上(事業間連携、手荷物輸送)
- ・ 公共交通機関との連携

【PR・情報発信】

- ・ 認知度の向上
- ・ 現地広報物の充実 → フォトスポット等の検討

【その他】

- ・ 来訪者数の調査手法検討(自転車交通量の観測地点検討を含む)

ルートが考えるターゲット

・ルートが考えるターゲットについて

➢ **初心者から上級者まで、全てのサイクリスト(観光客)がターゲット**
変化に富んだコース設計が可能なエリアであることを活かし、レベルやジャンルにとらわれない、全てのサイクリストがターゲットです。

➢ **地元住民(サイクリスト以外も含む)**

地元の人が自転車に乗りやすい環境整備、また、自転車に乗る機会を増やしていくことが、地域において自転車(サイクルツーリズム)を活性化させる基本であると考えています。



変化に富んだコース設計が可能

将来(次年度以降)取り組んでいきたいことについて

・今後の活動予定や地域からの要望、要求など

➢ 令和5年度から継続して“利用者目線”のニーズ調査を行ってきた。(令和5年度:地元サイクル関係事業者との交流促進/令和6、7年度:ルート利用者へのアンケート調査)。次年度以降調査内容をまとめ、より良いサイクリング環境になるよう取り組みを進めていきたい。



(R5)事業者との試走会



(R6,7)利用者アンケートの実施

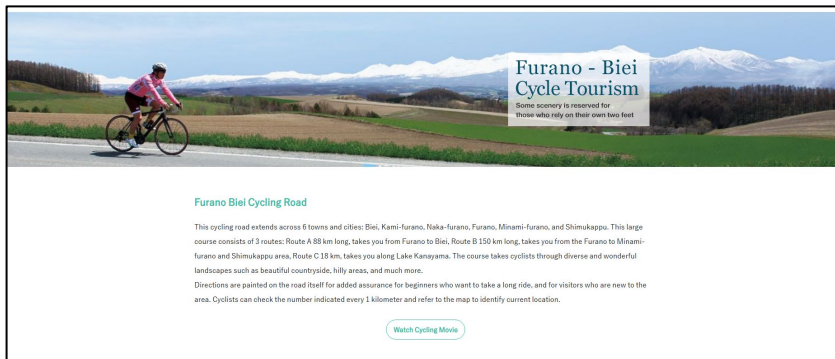
現在、力を入れている取り組みについて

・走行環境や受入環境、情報発信等で現在力を入れていること

➢ **サイクリストのニーズ把握、情報発信**

R6年度からサイクリストのニーズ把握のため、地域事業者と連携してWEBアンケート調査を実施。

また、情報発信機能の強化のため、既存ウェブサイトのコンテンツ追加等の更新し、**インバウンド向けにHPの英語対応も行っています。**



課題について

・現在、直面している課題について

➢ **案内表示の維持管理(財源の確保)**

昨年度から引き続き、平成27年度から整備を行っている路面表示について、各自治体の予算に限りがあるため、維持管理が難しくなっています。また、看板への変更等による整備についても、財源の確保や整備後の維持管理(保守点検)が課題です。



劣化の目立つサイン
跡形ないものも多数

・将来、取り組みたい事項に関する課題について

➢ **様々な立場が連携した体制の難しさ(関係者の巻き込みに課題)**

今後、サイクリングルートの取り組みをより一層活性化させていくためには、**現在主体となっている観光分野の関係者のみならず、道路管理者や交通事業者等、さまざまな立場との連携が不可欠であり、その連携体制を構築していくことが現在課題となっています。**

ルートが考えるターゲット

- ゲートウェイである女満別空港を中心に、オホーツク海沿岸の能取湖、網走湖、小清水原生花園といった景勝地、石北峠・美幌峠・藻琴峠の3つの峠を含むルートを設定。また、流氷に代表されるオホーツク特有の冬季資源を活用し、サイクリスト、ファミリー層、観光客と幅広い層をターゲットとした活動を展開。
- また、北見市、網走市、小清水町、大空町、美幌町が連携し、オホーツク地域特有の自然環境や食をテーマにしたイベントや大会を複数開催し、道内外のサイクリストを取り込むべく活動を展開。



R243美幌峠



オホーツク流氷ライド



オホーツクSEA TO SUMMIT

現在、力を入れている取り組みについて

- 体験型ツーリズム拠点であるコネクトリップにて、普段行けない国立、国定公園内の「秘境 & 新ルート」をアドベンチャートラベル(AT)初心者でも楽しめるようe-bikeやカヤックを搭載するアクティビティレーラーを活用して、気軽でありながら達成感のあるアドベンチャートラベルツアーを推進している。



硫黄山サイクリング



スポット間の移動は
アクティビティレーラーで



能取湖でカヤック

- 網走開発建設部はアクティビティ観光を支援するため、工事受注者と連携し、令和7年度から工事現場のキレイな「快適トイレ」の提供を始めた。トイレだけではなく、工事受注者のご厚意によりサイクルラックや自転車工具などを提供しているところもある。



将来(次年度以降)取り組んでいきたいことについて

・イベントの継続、さらなる内容の充実

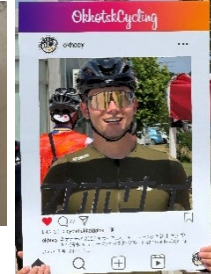
令和5年度から実施している宿泊型ロングライド「オホサイ」は回を重ねるごとに参加者が増え、オホサイ2025では、道内外からほぼ定員数の参加があった。また、開催後のアンケートではサポート体制やエイド提供物、景色やコースについて好評の声が多数あった。今後も、オホサイを継続することはもちろん、オホーツクの“魅力”と“おもてなしの心”を満喫していただくため、引き続き自転車系YouTuber「けんたさん」を招聘することを含め、よりPRに力を入れ、参加者に地域のピーターになってもらうよう工夫をしていきたい。



感動の径



エイド食の網走ちゃんぽん



自転車系YouTuber
「けんたさん」

動画はコチラから
(オホサイ2024)



- ・ステージを活用した新たな取り組みの模索
- ・新たなPR方法の模索・実行

課題について

・現在、直面している課題について

案内表示の補修・維持管理

オホーツクサイクリングルートは、令和5年度までに走行環境の整備率を100%とすることができたが、案内表示(特に路面標示)の劣化が進んでおり、その修復が課題となっている。今年度、路面標示の施工年と劣化具合について調査を実施したため、補修サイクルの検討及び予算の確保、適切な維持管理方針の検討を行いたい。

・将来、取り組みたい事項に関する課題について

地域ルートの充実・PRの促進

効果的な取組や事例をご教示いただきたい。

サイクルトレイン

オホーツクでも石北本線などでサイクルトレインを実施したく、協議を行おうとしているが、すでに実施しているルートの事例をご教示いただきたい。

石狩北部・増毛サイクルルート 活動概要報告

(赤字は昨年度資料からの変更点)

ルートが考えるターゲット

・ルートが考えるターゲットについて

石狩北部増毛サイクルルートは、日本海側の海岸景観や内陸の橋梁風景のほか、グルメ・観光スポットが豊富にあるため、本格的なサイクリストからファミリー層まで、幅広い方々に楽しんでいただけるルートです。



増毛町エリア



石狩市エリア

将来(次年度以降)取り組んでいきたいことについて

・石狩北部・増毛サイクルルートの周辺を将来的にスポーツ合宿の最適地として確立し、サイクリスト等の誘客を図るため、令和6年度に実施した北海道オールオリンピアンズの鈴木氏による試走や、本ルートのアドバイザーになっていた(株)サイクルフロンティアの石塚氏との意見交換を踏まえ、**スポーツ合宿受入の体制整備を図っていききたい。**



鈴木氏



試走会



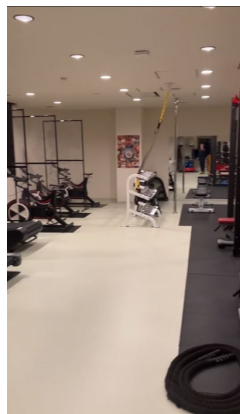
鈴木氏・石塚氏との意見交換

現在、力を入れている取り組みについて

・北見市へスポーツ合宿受入に係る視察を実施。また、北見市と意見交換を実施し、スポーツ合宿受入のための知見を得た。



意見交換会の様子



アスリート用ホテルの様子

課題について

・現在、直面している課題について

各自治体は自転車走行空間の整備を行うための予算に限りがあることから効率的な自転車走行空間の整備計画の策定が課題となっている。

現在、各所でサイクリストがどのくらい増えているのか把握できず、整備効果がわからない。サイクリストの走行者数等を各所で把握し、「どのコース(場所)が人気があるのか」「どういった施設があるとサイクリストに喜ばれるか」を現実的な数値で知ることができ、メリハリのある自転車走行空間整備を行いたい。

・将来、取り組みたい事項に関する課題について

本ルートの新たなPR手法として、全国のスポーツ選手が行う自転車トレーニングに着目し、夏季に過ごしやすい気候や本ルートの自然豊かな環境を強みに興味をもってもらうことで、サイクリストのみならず、広くスポーツ選手を含む潜在的なサイクリストに様々な角度から本ルートを楽しんでいただきたい。課題としてはスポーツ合宿の誘致にあたり、**電波不感地帯があること**、合宿を受け入れられる設備を整えた宿泊施設を整備すること、スポーツ合宿誘致のノウハウを持っていないこと等があげられるため、既にスポーツ合宿の受入実績のある道内関係団体等と連携を図り、課題解決に繋げていきたい。

ルートが考えるターゲット

・ビギナーからコンペディター(競技者)まで楽しめる懐の深さ！
～田園風景～日本海～山岳コース「蝦夷富士」羊蹄山を中心とした、
豊かな食と景観、北海道の縮図エリア～

ターゲット1:山あり海ありの北海道の縮図を体感でき、比較的短い距離感で休憩スポットが多数存在する本エリアで自転車の聖地北海道を体験したいビギナー

ターゲット2:世界水準のニセコリゾートは、多くの自転車対応のコンドミニアム・ペンション等があり国内外の滞在型・移動型のサイクリングツアーの利用に対応可能

ターゲット3:ニセコ山系・蘭越エリアはアジア唯一のUCI認定市民レース「ニセコクラシック」の会場エリアであり、コンペディターやトレーニングを目的とするサイクリスト



【羊蹄山・ニセコエリア】
(ビギナー、ファミリー層向け)



【蘭越エリア】(コンペディター向け)

現在、力を入れている取り組みについて

・走行、受入環境向上を目指す各種取り組み

【内容】

- 地域独自のサイクルイベントを開催し、サイクルガイド育成の場を確保
- 休憩スポットや飲食店へのサイクルスタンドの設置促進
- サイクル拠点への自動販売機設置や「サイクリスト応援カー」による更なる受入環境の向上

➢ サイクリストとドライバーが相互に思いやり、安全に道路空間を共有する「シェア・ザ・ロード」の意識醸成のため、シェア・ザ・ロード啓発カーの実施やポスターを掲示



サイクル拠点に設置された自動販売機



「シェア・ザ・ロード啓発カー」開始式

将来(次年度以降)取り組んでいきたいことについて

・サイクル拠点の更なる機能充実(継続)

- サイクリストの利便性向上を目的とし、ニセコ除雪ステーションの積極的な活用を継続するとともに、設置した自動販売機を活用し、自転車パーツ等を販売。サイクル拠点への案内看板を周辺道の駅へ設置し、サイクリストをサイクル拠点へ誘導

・シェア・ザ・ロードの普及啓発(継続)

- 道の駅等へのポスター設置(継続)やサイクリスト応援カーや地域の民間事業者の事業者車両等へのステッカー貼付(継続)、HPでの動画公開による、「シェア・ザ・ロード」の普及啓発を実施

・幅広いユーザー獲得に向けた環境整備

- 観光客を含む初心者～上級者が安心して楽しめるよう、受入施設の拡充や地域住民の意識醸成を図るとともに、HP等を活用した情報発信を実施



サイクル拠点の施設状況



シェア・ザ・ロードステッカー

課題について

・現在、直面している課題について

- 自転車受入環境の充実・拡充と、サイクリストの来訪人数、やその経済波及効果の評価

・将来、取り組みたい事項に関する課題について

- ルートのスタート地点を自由に設定し、フレキシブルに楽しむ環境整備に向けた、公共施設等を活用したサイクリスト用の駐輪場整備
- 広域なエリアを手軽に楽しんでもらうためのサイクルバスの導入・輸送環境の整備(運送事業者の機運醸成、積載物に係る事故・損失補償が課題)
- 本エリアにおけるサイクリングの裾野拡大に向けた環境整備(例:多様なアクティビティや地域資源(自然、食の魅力等)と連携したツアー等の創出)
- 地域全体での受入環境向上(サイクル観光に関するホスピタリティの醸成)

ルートが考えるターゲット

○ルートが考えるターゲットについて

- ・基幹ルート(オロロンライン)はツーリングやバイクキャンプなどの中上級者層及びスポーツバイクビギナーを対象。
- ・地域ルート(増毛町周辺エリアや留萌川エリアなど)はその地域のグルメや歴史等の観光資源を活かし、ファミリー層やライト層を対象。



基幹ルート (オロロンライン)

ツーリングやバイクキャンプ志向のほか、スポーツバイクビギナーもターゲットにしていきたい



地域ルート (増毛町)

増毛町内を周遊する地域ルートが令和4年度に策定(石狩北部・増毛ルートの地域ルートと重複)増毛町以外でも地域ルートの開発を進め、ファミリー層やライト層など、あらゆる世代が自転車に乗る機会を創出していきたい



地域ルート候補 (留萌川)



地域ルート候補 (天塩川)

現在、力を入れている取り組みについて

○走行環境や受入環境、情報発信等で現在力を入れていること

- ・地域の魅力を満喫し、地域振興に寄与するサイクルコースの開発
 - ▶ サイクルコースの開発を官民連携で実施。
 - ▶ サイクルコース点検会としても継続的に実施予定。
- ・サイクルイベントの実施やレンタサイクルの拡充
 - ▶ あらゆる世代が自転車に乗れる環境を創出。



オロロンライン・サイクルルート点検会



オロロンライン・サイクルルート意見交換会

基幹ルートを連絡会議のメンバーで走行し、自転車目線で、オロロンライン・サイクルルートの現状を再確認



留萌川サイクリングルート

既存の河川堤防コースの磨き上げとして、仮設案内看板を官民で連携して設置



サイクルロゲイニング

磨き上げた留萌川サイクリングルートイベントにも活用



天塩川下流サイクリングツアー

北海道かわまちづくりと連携し、地域のサイクルルート開発を推進



道の駅もい レンタサイクル

あらゆる世代が自転車に乗れるように、電動のレンタサイクルを導入



サイクルラック 二次元コード

サイクルラックに二次元コードを貼り付け、サイクルマップの普及・誘導

ルートが考えるターゲット

○ルートが考えるターゲットについて

- ・当ルートは、全長約「459km」のサイクルルートで、道南地域の「歴史」と「風景」が楽しめるルート。
- ・陸・海・空のゲートウェイを有することから、北海道の玄関口として、国内外のサイクリストが長期滞在で楽しめるルートとして提案していきたい。
- ・豪華客船が停泊することから海外の富裕層も対象と考えている。



西部ルート
(上ノ国町)



東部ルート
(函館市)



北海道の玄関口
(新函館北斗駅周辺)

現在、力を入れている取り組みについて

○走行環境や受入環境、情報発信等で現在力を入れていること

- ・基幹ルートの走行環境整備。
- ・基幹ルートの休憩場所として、約「20km」間隔に「道の駅」・「海の駅」等があり、施設としての利活用と連携。
- ・地域の公共交通機関との連携や地域企業との連携。
- ・SNSやYouTubeの活用、HPを基に発信。
- ・ロゴマークやサイクルジャージの活用、PR。今後、インバウンド客向けのお土産の商品開発を検討。
- ・サイクリスト応援カーの整備。
- ・安全教育の実施。



サイクルラック製作
ワークショップ



HPIによる情報発信



保育園での安全活動

将来(次年度以降)取り組んでいきたいことについて

○今後の活動予定や地域からの要望、要求など

- ・基幹ルートの走行環境整備。
- ・レンタサイクルの仕組みづくり、拠点づくりと整備。
- ・函館バスで制作したサイクルバスの認知度の向上と活用。
- ・エリアサイクルガイドの育成と普及、スキルアップ。
- ・サイクルルートの広報活動。
- ・安全教育の実施。



ルート案内
(R278)



観光協会でのレンタサイクル
(道の駅 みそぎの郷 きこない)



サイクルバスの活用
(函館バス)

課題について

○現在、直面している課題について

- ・自転車利用者の安全性とマナーの向上。
- ・ツアー客・インバウンド客の受入体制とガイド支援・育成。
- ・受入環境・走行環境整備に対する協力体制の確保。

○将来、取り組みたい事項に関する課題について

- ・道南全域でのレンタサイクル導入・整備と仕組み、一帯でのサイクル観光の推進。
- ・来訪者や地域の方でも気軽に楽しめるサイクリングルートを目指した環境整備。



交通公園での安全教室



観光庁インバウンドサイクル
ツアーへのガイド協力



サイクルガイド養成講座

各ルート協議会の課題

()内の番号は次の通り ①きた北海道ルート、②石狩川流域圏ルート、③阿寒・摩周・釧路湿原ルート、④カプチ400、
 ⑤富良野美瑛サイクリングルート、⑥オホーツクサイクリングルート、⑦石狩北部・増毛サイクルルート、
 ⑧羊蹄ニセコエリアサイクルルート、⑨オロロンライン・サイクルルート、⑩どうなん海道サイクルルート

課題		該当 ルート	ルート 数
集約	細目		
団体連携・機運醸成 (共通認識の形成・ 足並み調整)	走行環境や受入環境整備において共通認識を持ち、 足並みをそろえること が課題	①	8 ル ー ト
	市町村管理区間の看板、路面表示については、 各自治体の共通認識 と設置に係る財源確保が課題	②	
	サイクルツーリズムに対する意識に差があるため、今後は 地域の機運醸成を高める 等が必要	③	
	現在主体となっている観光分野の関係者のみならず、道路管理者や交通事業者等、 さまざまな立場との連携 が不可欠	⑤	
	各自治体は自転車走行空間の整備を行うための予算に限りがあることから 効率的な自転車走行空間の整備計画の策定 が課題	⑦	
	地域全体での受入環境向上 (サイクル観光に関するホスピタリティの醸成)	⑧	
	オロロンライン・サイクルルートを支える事業者・担い手育成の支援	⑨	
	受入環境・走行環境整備に対する 協力体制の確保	⑩	
走行環境の整備 (NCR基準達成・ 通過案内・路面管理)	案内看板、路面表示の 整備が令和6年度末で4% と遅れている	②	5 ル ー ト
	走行空間の整備促進→ NCR基準に一部未達 、複雑な交差点等における通過案内の手法 / 走行環境の向上 →路面管理等	④	
	案内表示 (特に路面標示)の劣化が進んでおり、 その修復 が課題	⑥	
	メリハリのある自転車走行空間整備	⑦	
	走行環境整備に対する協力体制の確保(重複)	⑩	
公共交通連携 (サイクルトレイン/ バス、持込ルール統一・ 収益性)	輸行や客車の貸切ではなく、 自転車をそのまま持ち込める車両を導入 したい	①	5 ル ー ト
	公共交通機関との連携	④	
	石北本線などでサイクルトレインを実施 したく、協議を行おうとしているが、すでに実施しているルートの事例を知りたい	⑥	
	サイクルバスの導入・輸行環境 の整備(運送事業者の機運醸成、積載物に係る事故・損失補償が課題)	⑧	
	公共交通へ 自転車を持込む際の統一ルールの検討整備 が必要	⑨	
PR・広報・情報発信 (認知度・HP方針・ 現地広報物)	ホームページによる ルートPRについて、管理運営方針や掲載項目、コンテンツ等基本項目の検討	②	5 ル ー ト
	ルートを活用した取組、もしくは知名度を上げる 効果的な事例を共有 いただき、協議会の活動の参考としたい	③	
	認知度の向上 / 現地広報物等の充実 → フォトスポット等の検討	④	
	地域ルートの充実 ・PRの促進	⑥	
	全国のスポーツ選手が行う自転車トレーニング に着目し本ルートの自然豊かな環境を強みに興味をもってもらう	⑦	
受入環境の強化 (ゲートウェイ/CS/CH、 駐輪場、ホスピタリティ)	受入施設の質の向上 (ゲートウェイならびにCS・CH)	④	4 ル ー ト
	自転車受入環境の充実・拡充(重複)	⑧	
	サイクルルートを支える事業者(宿泊事業者、レンタサイクル事業者など)の支援(重複)	⑨	
	道南全域でのレンタサイクル導入・整備と仕組み 、一帯でのサイクル観光の推進	⑩	